

まちづくり情報の核を目指す「こうべまちづくりセンター」

こうべまちづくりセンターでは、まちづくり会館の開館（平成5年）以来、今日まで「まちづくり」情報の収集と提供に努めてきました。この結果、会館4階の「まちづくりライブラリー」の蔵書数は都市計画、建築、土木、都市経営等の専門書を中心に2100冊を超え、かなり充実してきました。このほか、市や県の各種の資料も3000点を超えています。さらに最近では震災復興関連資料やビデオ等、貴重なまちづくり関係資料が続々と集まってきています。そして、現在、市民の皆様方にこれらの資料をもっとご活用いただけるように資料のデータベース化に取り組んでいます。

まちづくりライブラリー

まちづくり会館4階フロアにあります。毎日（休館日の水曜日を除く）午後10時から午後6時までご利用いただけます。図書については借りることもできます。詳しくは係りの者にお尋ね下さい。

まちづくり情報センター

震災復興関連の資料を中心にいろいろの制度、手法や事例について、体系的なデータベースづくりを進めています。館内に置かれた端末機の簡単な操作でお求めのデータを瞬時に探し出すことができるようにしたいと考えています。来年早々の稼働を目指して最後の追い込みにかかっています。また、インターネットからも「まちづくりデータベース」にアクセスしていた

だけのように整備を進める予定です。

まちづくりイベント、セミナー等の開催

まちづくりの気運を盛り上げるためのイベントに助成を行ったり、まちづくりに関するセミナーを開催するなど「まちづくり」関連情報の幅広い伝達と普及にも努めています。

・まちづくり実践ゼミ

コンサルタント、建築士等の専門家を対象に「まちづくり」の制度・手法等に関するホットな情報を提供しています。

・復興まちづくりセミナー

一般市民を対象にまちづくりやコミュニティづくりに係わりの深いテーマで講演会を開催しています。

復興まちづくりセミナーのご案内

コミュニティづくりとスポーツ

アーバンスポーツの可能性を探る

講師 平尾 誠二氏 (ラグビー日本代表監督・神鋼ラグビー部 GM)



ますます重要になってくる地域でのコミュニティづくりを進める上でスポーツのもつ役割や効用について平尾誠二氏が、イギリスでの経験と現在の研究成果をお話します。

- ・日時 平成 10 年 11 月 26 日 午後 2 時～3 時 30 分
- ・場所 ピフレホール（JR、地下鉄 新長田駅南すぐ）
- ・先着 400 名様 入場 無料

・申し込みは、ハガキ又は FAX（078-361-4523）で こうべまちづくりセンター（所在地は上記）まで
主催 ひょうご都市づくりセンター・こうべまちづくりセンター 後援 兵庫県・神戸市

こうべ市民安全まちづくり大学ニュース

☆ まちづくり講座開講

安全なまちづくりの技法をワークショップ形式で楽しみながら身につける「まちづくり講座」が、今年も開講しました。9月17日の第1回講座のテーマは、「地域の課題について考えよう」です。受講生が各区ごとの班に分かれて、自分たちのまちの課題について話し合いました。

受講生の皆さんからは、防災、防犯、事故防止のそれぞれについて、次のような課題が出てきました。

< 防災に関する課題 >	< 防犯に関する課題 >	< 事故に関する課題 >
<ul style="list-style-type: none"> ・避難所が遠い ・防火用水が少ない ・川やため池の危険性 ・急傾斜地が多い ・緊急車両が進入困難 	<ul style="list-style-type: none"> ・防犯灯の設置が必要な場所がある ・青少年の非行増加（万引き、シンナー、暴走等） ・青少年の溜まり場がある ・警察官が夜間いない ・仮設住宅の空き家対策 	<ul style="list-style-type: none"> ・違法駐車 ・放置自転車 ・歩道、道路の急傾斜 ・お年寄りの事故防止 ・野良犬の危険

特に、コミュニティのあり方については活発な議論が交わされました。

< コミュニティのあり方に関する課題 >
<ul style="list-style-type: none"> ・防災福祉コミュニティで活動する人が一部に限られ、高齢化している。幅広い参加を促す努力が必要 ・向こう三軒両隣の人間関係の大切さの見直し ・新旧住民間のコミュニケーション ・防災訓練への参加促進 ・大人と子どもと一緒に活動できるようなコミュニティ組織づくり ・独り暮らし老人などの要援護者を、災害時に地域でどう助けるか ・町内の医者や商店を知らない人が多くいるのでマップが必要

今回の講座で出てきたこれらの課題を踏まえて、次回以降の講座では安全なまちづくりの具体的な進め方を考えていきます。

☆ 地域安全まちづくりニュース

このコーナーでは、各地域で防災福祉コミュニティや市民安全推進員（昨年度の「大学」の修了生）などが中心になって行っている、安全なまちづくりの取り組みについてご紹介します。今回は、兵庫区の東山地区防災福祉コミュニティで住民の皆さんが取り組まれた、安全マップづくりについてご紹介します。



市民安全推進員の吾妻義信さん、原英雄さんが、全体の進め方などを説明しました。



8月23日（日）防災福祉コミュニティのメンバー約40名が集まり、まちを歩きました。



まち歩きの結果を地図にまとめて発表しました。

アメリカの郊外住宅事情③自由の国の排他的地域性

アメリカの郊外住宅地が、広く美しいのは厳格な土地利用規制のおかげ。でも「自由の国」アメリカと、厳しい土地の利用制限は、どこかイメージが合わない感じがする？。この疑問を解くため地域制が制度化してきた歴史を調べてみると、地域制による土地利用規制の法制化は、20世紀当初のアメリカの近代都市計画の歴史上の到達点であり、その後の都市計画の方向を示唆する重要な転換点であることがわかった。

アメリカは19世紀後半の経済の成長により、世界有数の工業国へ躍進し始めた。世界の各国からの移民が賃金労働者として、自由の国アメリカの都市へ押し寄せた。さらに、国内からもそれまで農業に従事していたアフリカ系アメリカ人（黒人）などが大都市にやってきた。新たに低賃金労働者として都市へ流入してきた彼らは住宅を求め、一つ部屋を手に入ると、たちまち数家族が住み、子供たちが路上にあふれるようになった。

従来から肌を接するような高密度の生活様式に満足できない白人たちはやがて郊外などの住宅地へ逃げ出した。借り手の無い住宅は移民等の低所得者階層の人に占拠されることとなり、結果的に白人たちは、なすすべもなく住宅の資産価値と、それまで築き上げたコミュニティまでも喪失しなければならない現象が、各地で発生した。

第1次世界大戦後、アメリカは資本主義社会の盟主として経済発展し、国民の所得のレベルが世界一に近づき、典型的な中産階級が数の上でも圧倒的に多くなり、政治的発言力を持ち、経済的にも文化的にもリードするようになった。

アメリカンドリームを実現した中間階級にとって、最大の関心はようやく手に入れた郊外住宅の住宅環境の保全とともに、土地と住宅の財産価値を保全することであった。それにはいかに異層の低所得者層の郊外の住宅地への進出を食い止めるかに関心が集まった。

その第一の方法が経済的に排斥する方法である。住宅敷地の最低制限を1000㎡程度の大規模にし、低所得階層が経済的に所得面・保有面で郊外住宅地に進出できなくする。これを担保するため獲得した法的制度が前回説明した自治体の条例として定めるゾーニング（地域制）等であった。

アメリカ合衆国は、各州の集まる連邦国家であり、法的権限は各州が持つ分権国家である。さらに土地利用などの地域に関わる問題は、州より法律で自治体に条例で定める権限を授与している。当時郊外の都市に住み政治的発言力を強めてきた中間階層の声が自治体の政策立案に反映し、地域制などの条例が制定され、次々に同様の都市に広まっていった。

この地域制は「排他的ゾーニング」ともいわれ、内容は人種差別を前提にしていること、マイノリティや貧困層の利益に反すること、また不動産業者などが自由に土地の処分ができなくなるなど、ゾーニングの条例の違法性について法廷闘争が繰り返された。



1926年にユークリッド村の条例をめぐる、連邦最高裁が「ゾーニング立法は、自治体住民の健康・安全・道徳・福祉のために、それらの害悪を排除するための立法である」と、その合憲性を承認した。この判決以前は、主として自らの土地利用が他人のそれを侵害する場合のみ、例外的に土地利用の自由の制限が法律で認められていたが、この判決で認められた条例によるゾーニング制度は、都市部における土地に関しては、公益のためには、補償無しで土地利用に関する私権を制限できる「ポリスパワー」としての法的拘束力を承認するものであった。

公共の利益のためには私的な土地利用の権利を規制しようという大原則を確立したことは、近代都市計画の最大の成果であり、その後の都市計画の方向性を示すものであった。

（神戸市都市計画局アーバンデザイン室 中山久憲）

<参考文献>

- ・渡辺俊一「アメリカの都市計画とコミュニティ理念」技報堂出版 1977
- ・大野輝之「現代アメリカの都市計画」学芸出版社 1997

まちづくり会館からののお知らせ

こうべまちづくり会館開館5周年記念

神戸市立小磯記念美術館所蔵

小磯 良平 作品展

平成10年11月7日(土)～11月23日(月) 水曜日は休館

午前10時から午後6時まで、入場 無料

今年度秋の企画展は、神戸市立小磯記念美術館の全面的なご協力を得て、同美術館での「没後10年小磯良平展」(開催期間 9月12日～11月8日)に引き続いて開催することになりました。

こうべまちづくり会館は平成5年11月に開館し、この11月で5周年を迎えます。今回の企画展は、これを記念した催しです。

◆協賛◆ 元町商店街連合会

◆後援◆ 神戸市・神戸市教育委員会・神戸市民文化振興財団

みなと元町タウン協議会

こうべまちづくり会館 地階ギャラリーの予定

期 間	内 容・テ ー マ	主 催 者
10月29日(木)～11月3日(火)	'98 遙洋会 油絵展	遙洋会
11月7日(土)～23日(月)	小磯良平 作品展	こうべまちづくりセンター
11月26日(木)～12月1日(火)	R展 第Ⅷ	森 治子

こうべまちづくり会館 1階オープンギャラリーの予定

11月1日(日)～8日(日)	昔の長田写真展	長田区役所まちづくり推進課
11月9日(月)～30日(月)	「美緑花こうべポスター展」入賞作品	神戸市環境局業務部計画課

すまい・まちづくりのご相談は

- すまい・まちづくり人材センター
(こうべまちづくり会館 3F)
電話 078-361-4377 FAX 078-361-4584
受付は、月・火・木・金曜の午前10時～午後5時
- 祝日・土・日曜は
まちづくり相談コーナーで受け付けます
(こうべまちづくり会館 4F)
時間は、午前10時～午後5時

自治会活動などのご相談は

- コミュニティ相談センター(まちづくり会館 4F)
会報等の印刷サービスや学習会へのインストラクター派遣など
受付は、午前10時～午後6時
電話 078-361-4565



〒650-0022

神戸市中央区元町通4丁目2-14

電話 078-361-4523

FAX 078-361-4546